

インストラクター資格更新研修

TA 心理カウンセラー・交流分析士インストラクター 中島 由子

脚本対脚本 交流分析士教授 山本昭一先生

3月5日 インストラクター資格更新のために行われた研修は大変興味をそそられる題名でした。脚本対脚本 まさに人間関係は複雑なものなんだと言わんばかりです。そして山本先生が最初に話されたことは交流分析を学ぶときに心がけている事でした。大阪大会の時のデュセイ博士の話为例にシンプルイズベストだと、あくまでも患者が主人公であること、自分で使える道具を与える事、科学的態度を忘れないことなどが大切なのだという事などでした。私たちが日頃から忘れてはいけないことを教えてくれたように思います。

先生は参考文献を全て表記してそれぞれに番号を振り、資料の中に細かく番号とページまで記載してくださいました。これは何て親切なのだろうと感心しました。

60名ほどの人数を前後のテーブルで組み4～5名のグループになり話し合いを持ち、グループごとの発表も行われました。

まずパーソナリティを自我状態で分析すること、構造論としての交流分析の活用、理想像を目指して成長していくこと、理想像とは汚染のない自律性の獲得であり、いわばそれは統合された「成人」であること、自己実現したマズローの人物像にもあたるとのことでした。難しい内容を分かりやすく教えてくださいさすが山本先生だと思いました。

ラケット行動とゲームの違いも理解が深まりました。日本はゲームまでいかないラケット行動が多いということも納得できました。ゲームまでいってしまうと日本人にはギスギスすぎるようです。ラケット行動で曖昧にしておくのも日本人らしさなのだと思います。ラケットは時間の構造化でいうと暇つぶしなのですね。これもらしさといったらよいのでしょうか。脚本を強化する心理ゲーム、過去対過去のやり取りから脚本を推測する、ドラマ三角形の役割交代で心理ゲームを分類するなど例題に沿ってグループで推測していきました。グループによって推測することが違うなど、なかなか興味深かったです。山本先生の予想外な展開もあったようでした。同じCP15点でも親が違えばCPの中味も変わるのだと講義の最初に山本先生が話されていたことを思い出しました。例題の中で、第一の立場の人がいつも問題を起こしていく人の話を聞いた場合に、ゲームにならない（もしくはラケット行動）にならないことは考えさせられました。私たちが第一の立場にいつも身を置くことの重要性を感じた瞬間でもありました。

共生関係においても©を使わないことが様々な問題点を引き起こしているとの説明も心に残りました。

今回、皆さんの活発な質問に感心したり先生の配慮や熱心さに感動したり、日本らしさなど、人はみんな違うのだな、という感想を持ちました。山本先生、有意義な時間をありがとうございました。

